

【ショート対談】スポーツインテグリティを巡る国際連携の新たな潮流

登壇者(敬称略) ※肩書はイベント開催 当時のもの	Corentin Segalen 元コペンハーゲングループ チェアマン/Head of Sports, ANJ 稲垣 弘則 当協議会代表理事／西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 弁護士 パートナー
---------------------------------	---

稲垣: フランスから Corentin さんにお越しいただきました。Corentin さんは欧州評議会コペンハーゲングループの元チェアマンで、当協議会にもスポーツインテグリティ、違法スポーツ賭博対策の分野で、多くの情報や示唆をいただいております。

Corentin Segalen: 私はフランスのナショナルプラットフォームで、スポーツの不正操作との戦いに取り組んできました。コペンハーゲングループでは、各国から報告されたアラートを記録していますが、2025 年は世界中で八百長に関する 1137 件のアラートがありました。地域別ではアジアが最も多く、ヨーロッパ、南アメリカが続きます。競技別ではサッカーが多く、バスケットボールもありました。

八百長が起きるのはトップレベルの競技だけではありません。大きな懸念の一つは、18 歳以下の若い選手をめぐるスポーツ不正操作です。若い選手がベッティングやマッチフィクシングの対象になることは危険です。

稲垣: 最近、プロスポーツに特化したフランスでの新法制定の動きがあるそうですが、この点についてお話しいただけますでしょうか。

Corentin Segalen: フランス議会で先週、スポーツ法典改正に関する最初の議論が行われました。プロスポーツに特化した形で、ガバナンスや汚職に関する規定が議論されています。その中には、スポーツデータ保護の条項も含まれています。特に、スポーツベッティングでの違法なデータ収集にどう取り組むかが念頭に置かれています。

私たちは、日本での議論を学びたいと思っています。また、フランスでの立法、特にスポーツデータ保護とスポーツガバナンスについても共有したいと考えています。

稲垣: もともと日本の著作権法がフランス法を参考に制定された経緯もあり、法体系が似ているところがあります。これからコペンハーゲングループや欧州評議会と当協議会との間で、特に立法に関する協力関係も作っていければと考えています。